教科	科目	単位数	対象学年
国語	現代文Ｂ	文系３　理系２	６年

１．学習の到達目標等

到達目標	抽象度の高い評論文の論理展開をつかむとともに、筆者の主張を適切にまとめる記述力を養成する。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞くとともに、主体的に思考することを重視する。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組むとともに、自分を顧み、主体的に学力向上のための学習に取り組むことができるよう指導する。
使用教科書	『精選現代文Ｂ』（筑摩書房）
使用副教材	『現代文読解問題　標準編』（駿台文庫） 『共通テスト対策用マーク問題集』
評価基準	小テスト及び定期考査・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・大学入試に必要な語彙力の習得、活用の完成 評論文　・教科書を題材に、大学入試に対応できる筆者のレトリックや主張を意識して読むことと、内容を大きく要約すること。全体の論展開を踏まえた上で、部分の読解ができる力を身に着ける。 ・本文から読み取った内容を設問の要求にそって、論理的に正しい構造で解答する力を養う。 ・様々なテーマを深く理解することで、自分のこれからの生き方を考える材料とする。 文学的文章　・小説においては、登場人物の性格や特徴、非言語的な身体表現を精緻に読み取った上で、心情の機微を説明することを学ぶ。 ・様々な作者、登場人物の考え方、生き方理解するとともに、多角的な視点で批評しし、自分のこれからの生き方を考える材料とする。 〇共通テストなどの問題への取り組み 出題者は何を答えてほしいのか、自分が出題者ならどう出題するかを問いかけ、問題に適切に「答える（応える）」姿勢を養う。また、複数テクストを比較し、理解を深めていく思考力、判断力、表現力を育成する。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
高３	現代文	評論	「絵画の二十世紀」等					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		小説	「藤野先生」等																																	
		随想	「声の諸相」等																																	
		評論	「無常ということ」等																																	
		小説	「舞姫」等																																	
		言語知識	漢字、語彙等																																	

教科	科目	単位数	対象学年
国語	古典Ｂ	３	６年

１．学習の到達目標等

到達目標	現代とは異なる時代に生きた人々の感性に触れることで、自分の考えを相対化し、様々な視点から自己を見つめられる人格の形成を目指す。 また、受験科目「国語」の一部として、読解能力、文法知識の高いレベルでの理解を目指す。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。
使用教科書	『古典Ｂ　古文編』　『古典Ｂ　漢文編』（筑摩書房）
使用副教材	『共通テスト対策用マーク問題集』 『古典読解問題　標準編』（駿台文庫） 『新明説漢文』（尚文出版）
評価基準	小テスト及び定期考査・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	○文章読解　生徒自身が進んで読みたくなるような「面白い文」を扱い、能動的に読む能力を養う。生きた人間が書いた生きた文であることを意識させ、単なる歴史的教養の押し付けで終わらないようにする。 ○文法知識　文章を読むために必要な知識であることを理解させる。基礎単語、助動詞を機械的に訳せば大意がつかめること、敬語を押さえれば人間関係が見えてくることを伝え、知識力を読解力に換えていく。 また、共通テスト等の受験での文法問題は確実に得点できるように文法への抵抗感、苦手意識を無くしていく。 ○共通テストなどの問題への取り組み 出題者は何を答えてほしいのか、自分が出題者ならどう出題するかを問いかけ、問題に適切に「答える（応える）」姿勢を養う。また、複数テクストを比較し、理解を深めていく思考力、判断力、表現力を育成する。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6年	古典	説話・随筆	古今著問集など		■	■	■	1学期中間考査	■	■	■	■	1学期期末考査	■							2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			方丈記など						■	■	■	■		■																							
		物語・日記	大和物語など		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■			■	■	■		■									
			源氏物語など											■			■	■	■	■			■	■	■		■										
			紫式部日記など											■			■	■	■	■			■	■	■		■										
		軍記・和歌	平家物語											■			■	■	■	■			■	■	■		■										
			中世の歌など											■			■	■	■	■			■	■	■		■										
		漢文	桃花源記など		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■																
			史記など																				■	■	■		■										

教科	科目	単位数	対象学年
国語	国語表現	4	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語力の向上を図る。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。 授業や家庭学習を通して文章を読んで書いたり、書いた文章をもとに話し合ったりすることができるよう工夫する。
使用教科書	国語表現（東京書籍）
使用副教材	自主教材・問題集
評価基準	定期考査の結果・小テスト・提出物を総合的に判断する。
学習内容	・文章を読み情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする。 ・相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 ・論理の構成や描写の仕方などを工夫して書き、主張が伝わるよう工夫する。 ・目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 ・国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などについて理解を深める。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6	国語表現	調べる	本に自分を～情報探しの一方法～																																		
		取材する	医療という現場																																		
		説明する	一人で対する未知の世界																																		
		まとめる	伝える力																																		
		古典の実現に学ぶ	『枕草子』に参加してみる																																		
		広告の実現に学ぶ	広告とレトリック																																		
		話す	ノートをもとにしたスピーチ																																		
		発表する	情報を整理して口頭で伝える																																		
		討論する	主題の観点と問題を考える																																		
		意見文を書く	「一・五」の関わり																																		
		小論文を書く	時分の花と未成熟社会																																		

1学期中間考査　1学期期末考査　2学期中間考査　2学期期末考査　学年末考査

教科	科目	単位数	対象学年
公民	公民探究	3	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	・政治や経済，先人の知恵・思想などに関する基本的な知識を身につけて，国際社会に生きる人間として，現代社会の諸課題に関する理解を深め，それらの課題の解決策を多面的・多角的に考察することができる人間を育てる。 ・国際政治・国際経済の概要について学びながら，今日の社会情勢など，自身を取り巻く環境と関連付けて，自身が国際社会のなかで生きる人間の一人であることを理解する。
目標を達成するための留意点	グループ学習などアクティブラーニングを通して、自分の意見が持てるようにしたい。 大学入試に向けて、演習を多用し備える。
使用教科書	改訂版　政治・経済（数研出版） 改訂版　倫理（数研出版）
使用副教材	政治経済演習ノート（数研出版）　実力トレーニング政治経済（啓隆社） 最新図説　政経（浜島書店）　政治経済用語集（山川出版） 倫理演習ノート（数研出版）　実力トレーニング倫理（啓隆社） 最新図説　倫理（浜島書店）　倫理用語集（山川出版） 共通テスト実践問題パックＶ倫理・政治経済（駿河台文庫）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【 現代の国際政治 】 国際政治の動向／国際社会の課題と日本人の役割 【 国民経済と国際経済 】 国際経済の動向／国際経済の課題と国際協力 【 西洋思想の受容と近現代の日本の思想 】 近代の日本の思想／国際社会を生きる日本人 【 現代の諸課題と倫理 】 生命倫理／現代の環境問題／家族と地域社会／情報社会の功罪／ さまざまな文化・宗教への理解／国際平和と人類の福祉

２．指導計画

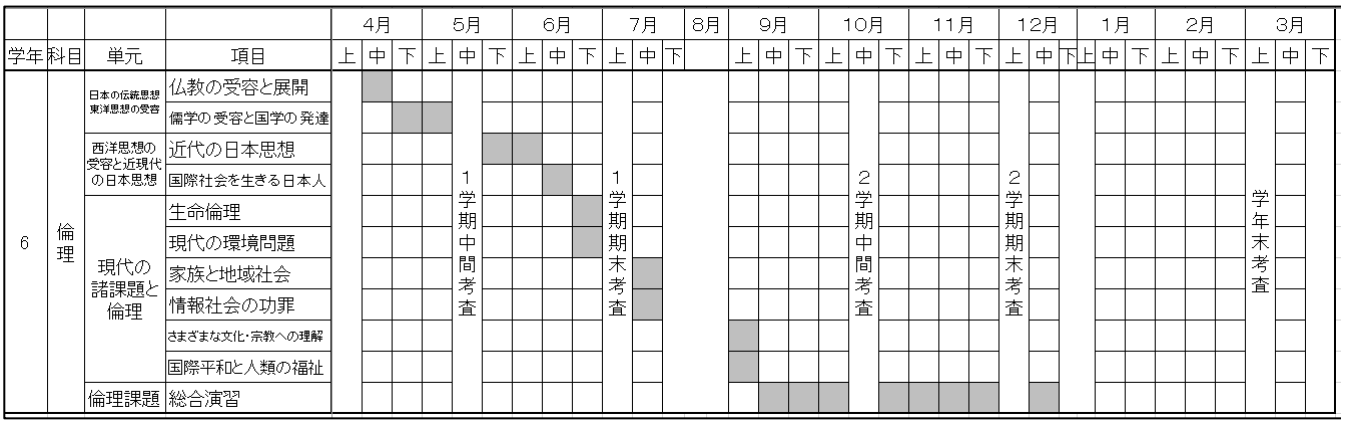
				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
6	公民探究	現代の国際政治	国際政治の動向					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査			
			国際社会の課題と日本人の役割																										
		国民経済と国際経済	国際経済の動向																										
			国際経済の課題と国際協力																										
		西洋思想の受容と近現代の日本思想	近代の日本思想																										
			国際社会を生きる日本人																										
		現代の諸課題と倫理	生命倫理																										
			現代の環境問題																										
			家族と地域社会																										
			情報社会の功罪																										
			さまざまな文化・宗教への理解																										
			国際平和と人類の福祉																										
		総合演習	総合演習																										

教科	科目	単位数	対象学年
公民	倫理	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせると共に、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
目標を達成するための留意点	グループ学習やアクティブラーニングを通して、より具体的に習った知識が自分なりに活用できるようにする。 大学入試に向けて、演習を多用し備える。
使用教科書	改訂版　倫理（数研出版）
使用副教材	倫理演習ノート（数研出版）　実力トレーニング倫理（啓隆社） 共通テスト実践問題パックＶ倫理（駿河台文庫） 最新図説　倫理（浜島書店）　倫理用語集（山川出版）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【 日本の伝統思想と東洋思想の受容 】 仏教の受容と展開／儒学の受容と国学の発達 【 西洋思想の受容と近現代の日本の思想 】 近代の日本の思想／国際社会を生きる日本人 【 現代の諸課題と倫理 】 生命倫理／現代の環境問題／家族と地域社会／情報社会の功罪／ さまざまな文化・宗教への理解／国際平和と人類の福祉 【 倫理演習 】 総合演習

2．指導計画

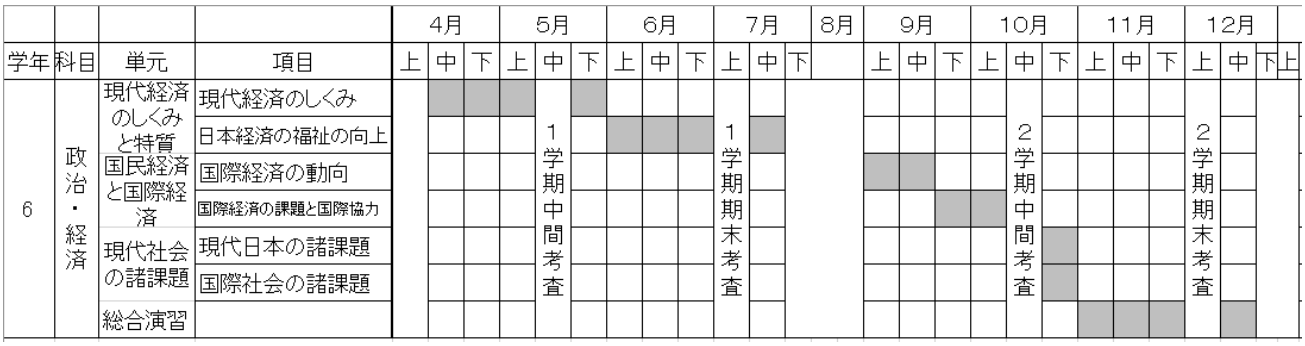


教科	科目	単位数	対象学年
公民	政治・経済	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させると共に、それらに関する諸課題について主体的に考えさせ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
目標を達成するための留意点	グループ学習などアクティブラーニングを通して、自分の意見が持てるようにしたい。 また、大学入試に向けて、演習を多用し備える。
使用教科書	改訂版　政治・経済（数研出版）
使用副教材	政治経済演習ノート（数研出版）　実力トレーニング政治経済（啓隆社） 共通テスト実践問題パックＶ政治経済（駿河台文庫） 最新図説　政経（浜島書店）　政治経済用語集（山川出版）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【 現代経済のしくみと特質 】 現代経済のしくみ／日本経済と福祉の向上 【 国民経済と国際経済 】 国際経済の動向／国際経済の課題と国際協力 【 現代社会の諸課題 】 現代日本の諸課題／国際社会の諸課題

2．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
地歴	世界史Ｂ	4	６年

１．学習の到達目標等

到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	◆授業を中心に教科書・図説・プリント・世紀別地図の掛け軸を活用して，世界の歴史の流れを整理・理解させる。◆人名や事件の名称の暗記に終わらず，歴史事象の背景や結果とその影響，意義などを総合的に理解・考察させる。◆授業では，教科書・図説・用語集の３点セットを使用（２学期からは問題集も使用)。学習している時代や地域が，世界史の流れのどの部分に位置するかを常に確認し，学習にあたれるように指導する。
使用教科書	詳説　世界史　改訂版（山川出版社）
使用副教材	世界史Ｂ用語集（山川出版社)，総合マスター世界史Ｂ（浜島書店)，ニューステージ世界史詳覧（浜島書店)，実力トレーニング世界史（啓隆社)，パワーマックス共通テスト対応模試世界史Ｂ（Ｚ会）
評価基準	知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	◆帝国主義時代の列強の世界政策の様相やアジアの民族運動。 ◆第一次世界大戦後の国際政治の動向と世界恐慌から第二次世界大戦終結に至るまでの政治・経済の動向。 ◆米ソ両陣営の対立や民族独立運動を扱い，世界の政治・経済の動向。 ◆冷戦の終結やソ連・東欧社会主義国の崩壊など，現代世界の情勢を学習する。 ◇２学期はじめには教科書全範囲終了。10 月下旬の記述模試，11 月初旬のマーク模試に向けて指導。その後，総復習・演習授業とセンター試験対策問題を実施。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6	世界史B	アジア諸地域の動揺	オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容		■																															
			南アジア・東南アジアの植民地化		■	■																														
			東アジアの動揺			■																														
		帝国主義とアジアの民族運動	帝国主義と列強の展開				■																													
			世界分割と列強対立				■		■																											
			アジア諸国の改革と民族運動						■	■																										
		二つの世界大戦	第一次世界大戦とロシア革命							■	■																									
			ヴェルサイユ体制化の欧米諸国								■	■																								
			アジア・アフリカ地域の民族運動									■																								
			世界恐慌とファシズム諸国の侵略											■																						
			第二次世界大戦														■																			
		冷戦と第三世界の独立	戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立														■	■																		
			米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興															■																		
			第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り																■																	
			石油危機と世界経済の再編																■																	
		現在の世界	社会主義諸国の変容とグローバリゼーションの進展																	■																
			途上国の民主化と独裁政権の動揺																	■																
			地域紛争の激化と深刻化する貧困																	■																
			現代文明の様相																	■																
		共通テスト対策演習,試験後二次の論述指導	単元別復習授業																			■	■	■	■		■									
			テーマ別復習授業																			■	■	■	■		■									
			センター試験対策演習																			■	■	■	■		■									

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	地理Ｂ	３	６年

１．学習の到達目標等

到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	社会的事象の本質を見極めることのできる力をつけるために、多面的な知識を活用していくことを主眼において授業を展開する。そのためには社会（身の回り、社会で起こっていること）に興味を持ち、自分からグローバル社会に飛び込んでいく姿勢が必要となる。
使用教科書	新詳地理 B(帝国書院）、新詳高等地図初訂版(帝国書院)
使用副教材	新詳高等地図初訂版(帝国書院)、新詳地理資料（帝国書院)、データブック(二宮書店)、チェック＆演習地理Ｂ（数研出版)、サクシード地理（啓隆社）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	生活文化 民族と宗教 現代世界の国家 民族・領土問題 地誌

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6	地理B	生活文化、民族・宗教	生活文化		■			1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			民族と宗教		■																															
			現代世界の国家			■																														
			民族・領土問題			■	■																													
		地誌	アジア				■																													
			アフリカ					■																												
			ヨーロッパ					■																												
			ロシア							■																										
			アングロアメリカ							■	■																									
			ラテンアメリカ								■	■																								
			オセアニア											■																						
			日本														■																			
		総合演習																■	■	■		■	■	■	■		■									

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	日本史Ｂ	４	６年

１．学習の到達目標等

到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	各時代の特色を捉え、前後の時代を比較してその移り変わりを考察し、流れをおさえることが大切である。
使用教科書	詳説日本史(山川出版社)
使用副教材	日本史Ｂ用語集、詳説日本史図録(山川出版社)、ステップアップ日本史（啓隆社)、 大学入学共通テスト 日本史トレーニング問題集（山川出版社)、 共通テスト実戦問題パックＶ　日本史Ｂ（駿台文庫）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【近代・現代】 二つの世界大戦とアジア 占領下の日本 高度成長期の時代 激動する世界と日本

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6	日本史	近代・現代	2つの世界大戦とアジア																																		
			占領下の日本																																		
			高度成長の時代																																		
			激動する世界と日本																																		
		総合演習																																			

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅱ	3	6年文系

1. 学習の到達目標等

到達目標	・数学ⅠＡⅡＢの基礎学力の定着を図る。 ・共通テスト模試では，得点率70％以上を目指す。
目標達成のための留意点	・各単元の基本事項を正しく，理解させる。 ・演習を積み重ねながら，処理能力を上げさせる。 ・共通テストの問題形式に慣れさせる。
教科書	数学Ⅰ （数研出版） 数学Ⅱ （数研出版） 数学Ａ （数研出版） 数学Ｂ （数研出版）
副教材	攻略！共通テスト Pick Up 128 数学 I+A, II+B （東京書籍） 共通テスト対策教材　数学ⅠＡ （未定） 共通テスト対策教材　数学ⅡＢ （未定） 初めから解ける数学Ⅰ・A 問題集 （マセマ出版） 初めから解ける数学Ⅱ・B 問題集 （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅰ・A （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅱ （マセマ出版） 元気が出る数学Ｂ （マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［共通テスト対策］ ・プリント，副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。 ・模試や入試の過去問を用いて，既有知識を活用する力を養う。 ・演習を中心とする。

2. 授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅱ	演習					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査												

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ｂ	２	６年文系

１．学習の到達目標等

到達目標	・数学ＩＡⅡＢの基礎学力の定着を図る。 ・各大学個別学力試験に対応できる応用力をつける。 ・記述模試で偏差値 55 以上が取れる力をつける。
目標達成のための留意点	・各単元の基本事項を正しく，理解させる。 ・問題文の読解力，式を見る力，図を見る力をつけさせる。 ・既有知識を信じて，自分で考える力をつけさせる。
教科書	数学Ⅰ （数研出版） 数学Ⅱ （数研出版） 数学Ａ（数研出版） 数学Ｂ（数研出版）
副教材	文系の数学 実戦力向上編 （河合出版） 初めから解ける数学Ⅰ・A 問題集 （マセマ出版） 初めから解ける数学Ⅱ・B 問題集 （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅰ・A （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅱ （マセマ出版） 元気が出る数学Ｂ（マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［個別学力試験対策］ ・プリント，副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。 ・模試や入試の過去問を用いて，既有知識を活用する力を養う。 ・演習を中心とする。

２．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B	演習					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査												

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学探究	3	6年理系

1. 学習の到達目標等

到達目標	・数学ＩＡⅡＢの基礎学力の定着を図る。 ・共通テスト模試では，得点率80％以上を目指す。
目標達成のための留意点	・各単元の基本事項を正しく，理解させる。 ・演習を積み重ねながら，処理能力を上げさせる。 ・共通テストの問題形式に慣れさせる。
教科書	数学Ⅰ （数研出版） 数学Ⅱ （数研出版） 数学Ａ（数研出版） 数学Ｂ（数研出版）
副教材	攻略！共通テスト Pick Up 128 数学 I+A, II+B （東京書籍） 共通テスト対策教材　数学ＩＡ（未定） 共通テスト対策教材　数学ⅡＢ（未定） 初めから解ける数学Ⅰ・A 問題集 （マセマ出版） 初めから解ける数学Ⅱ・B 問題集 （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅰ・A （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅱ （マセマ出版） 元気が出る数学Ｂ（マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［共通テスト対策］ ・プリント，副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。 ・模試や入試の過去問を用いて，既有知識を活用する力を養う。 ・演習を中心とする。

2. 授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学探究	演習					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査											

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅲ	4	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	・数学ⅠＡⅡＢⅢの基礎学力の定着を図る。 ・各大学個別学力試験に対応できる応用力をつける。 ・数学Ⅲの学習を通して，これまでの学習内容の体系化を図る。 ・記述模試で偏差値60以上が取れる力をつける。
目標達成のための留意点	・各単元の基本事項を正しく，理解させる。 ・問題文の読解力，式を見る力，図を見る力をつけさせる。 ・既有知識を信じて，自分で考える力をつけさせる。
教科書	数学Ⅰ （数研出版） 数学Ⅱ （数研出版） 数学Ⅲ （数研出版） 数学Ａ（数研出版） 数学Ｂ（数研出版）
副教材	数学Ⅲ　重要事項完全習得編 （河合出版） 理系数学入試の核心　標準編　改訂版 （Ｚ会出版） 初めから解ける数学Ⅰ・A 問題集 （マセマ出版） 初めから解ける数学Ⅱ・B 問題集 （マセマ出版） 初めから解ける数学Ⅲ問題集 （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅰ・A （マセマ出版） 元気が出る数学Ⅱ （マセマ出版） 元気が出る数学Ｂ（マセマ出版） 元気が出る数学Ⅲ （マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［個別学力試験対策］ ・プリント，副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。 ・模試や入試の過去問を用いて，既有知識を活用する力を養う。 ・演習を中心とする。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅲ	演習					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査											

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理（理系）	4	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	物理的な事物･現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。
使用教科書	「物理」（数研出版）
使用副教材	「センサー物理」（啓林館） 「良問の風」（河合塾）
評価基準	・定期試験　・課題提出　・授業への意欲により総合的に判断する。
学習内容	大学入試の問題演習とグループ型学習の中での教えあいを通して，基礎理解の確認を行い，問題の導入部分を考え，教えあう中で問題読解力の向上を促す。 さらにグループ全員が理解することを共通目標にすることにより，教えあう意識を高め，自己の理解を確認し深める機会を提供する。

2．指導計画

力と運動	剛力にはたらく力のつり合い			1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	さまざまな運動①																	
	さまざまな運動②																	
	さまざまな運動③																	
	運動量																	
熱	気体分子の運動と圧力																	
	気体の状態変化																	
波	波の性質																	
	音																	
	光																	
電気と磁気	電界と電位																	
	電流																	
	電流と磁界																	
	電磁誘導と電磁波																	
原子	電子と光																	
	原子と原子核																	
	物理学が築く未来																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理（文系）	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	物理的な事物･現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	学習のアドバイス等 1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養うこと。
使用教科書	「改訂版　新編　物理基礎」（数研出版）
使用副教材	「リードα物理基礎」（数研出版）　　「チェック＆演習　物理基礎」（数研出版） 2024共通テスト直前演習 物理基礎（ラーンズ）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	第１部「運動とエネルギー」，第２部「熱」，第３部「波」，第４部「電気」，第５部「物理学と社会」の各部において，物理現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月	3月
運動とエネルギー	運動の表し方	■	■	1学期中間考査	■	1学期末考査					2学期中間考査		2学期末考査				
	運動の法則	■	■		■												
	仕事と力学的エネルギー	■	■		■												
熱	熱とエネルギー	■	■		■												
波	波の性質						■		■								
	音						■		■								
電気	物質と電気抵抗									■		■		■			
	磁場と交流									■		■		■			
物理学と社会	エネルギーの利用									■		■		■			

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学（理系）	4	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	難関大学合格に向けた，実戦即応型の学力を身につける。 問題読解力の向上，基礎理解の確認，推薦入試も視野に入れた発現力の向上を目指す。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「改訂　化学」（東京書籍）
使用副教材	「ニューグローバル化学」（東京書籍） 「化学重要問題集」（数研出版） 「大学入試共通テスト化学単元別問題集」（駿台文庫） 「2024 共通テスト直前演習　化学」（ラーンズ）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	5 編　有機化合物 1 章　有機化合物の特徴と構造 2 章　炭化水素 3 章　アルコールと関連化合物 4 章　芳香族化合物 5 章　有機化合物と人間生活 6 編　高分子化合物 1 章　天然高分子化合物 2 章　合成高分子化合物 3 章　高分子化合物と人間生活 入試対策演習

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
化学と人間生活	化学とは何か			1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	物質の成分と構成元素																	
物質の構成	原子の構造と元素の周期表																	
	化学結合																	
物質の変化	物質量と化学反応式																	
	酸と塩基																	
	酸化還元反応																	
物質の状態と平衡	物質の状態																	
	気体の性質																	
	溶液の性質																	
	固体の構造																	
化学反応とエネルギー	化学反応と熱・光																	
	電池と電気分解																	
化学反応の速さと平衡	化学反応の速さ																	
	化学平衡																	
	水溶液中の化学平衡																	
無機物質	周期表と元素																	
	非金属元素の単体と化合物																	
	遷移元素の単体と化合物																	
	無機物質と人間生活																	
有機化合物	有機化合物の特徴と構造																	
	炭化水素																	
	酸素を含む有機化合物																	
	芳香族化合物																	
	有機化合物と人間生活																	
高分子化合物	高分子化合物																	
	天然高分子化合物																	
	合成高分子化合物																	
	高分子化合物と人間生活																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学（文系）	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	難関大学合格に向けた，実戦即応型の学力を身につける。 問題読解力の向上，基礎理解の確認
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて、学習内容を確認し、思考力や応用力を養う。
使用教科書	「改訂　化学基礎」（東京書籍）
使用副教材	「共通テスト対策チェック＆演習　化学基礎」（数研出版） 「2024 共通テスト直前演習　化学基礎」（ラーンズ）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	科学と人間生活 科学とは何か 物質の成分と構成元素 物質の構成 原子の構造と元素の周期表 化学結合 物質の変化 物質量と化学変化 酸と塩基 酸化還元反応 入試対策演習

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
化学と人間生活	化学とは何か			1		1					2		2					
	物質の成分と構成元素			学		学					学		学				学	
物質の構成	原子の構造と元素の周期表	■	■	期		期					期	■	期	■			年	
	化学結合		■	中	■	期					中	■	期	■			末	
物質の変化	物質量と化学反応式			間	■	末	■				間	■	末	■			考	
	酸と塩基			考		考			■	■	考	■	考	■			査	
	酸化還元反応			査		査				■	査	■	査	■				

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物（理系）	4	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて，学習内容を確認し，思考力や応用力を養う。
使用教科書	「改訂　生物」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物」（数研出版） 「フォトサイエンス生物」（数研出版） 「重要問題集　生物」（数研出版） 「大学入試共通テスト生物単元別問題集」（駿台文庫） 「2024 共通テスト直前演習　生物」（ラーンズ） 「共通テスト実戦問題　パックⅤ　生物」（駿台文庫）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	４編：生物の環境応答 １章：動物の刺激の受容と反応 ２章：動物の行動 ３章：植物の環境応答 ５編：生態と環境 １章：生物の多様性と生態学 ２章：個体群と生物群集 ３章：生態系の物質生産とエネルギーの流れ ４章：生態系と生物多様性 ６編：生物の進化と系統 １章：生命の起源と生物の変遷 ２章：進化のしくみ ３章：生物の系統 入試対策演習

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生命現象と物質	生体物質と細胞			1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	タンパク質の構造と酵素																	
	細胞間の相互作用とタンパク質																	
	代謝とエネルギー																	
遺伝子のはたらき	DNAの構造と複製																	
	遺伝情報の発現																	
	遺伝子の発現調節																	
	バイオテクノロジー																	
生殖と発生	生物の有性生殖																	
	動物の発生																	
	動物の発生のしくみ																	
	植物の発生																	
生物の環境応答	動物の刺激の受容と反応																	
	動物の行動																	
	植物の環境応答																	
生態と環境	生物の多様性と生態学																	
	個体群と生物群集																	
	生態系の物質生産とエネルギーの流れ																	
	生態系と生物多様性																	
生物の進化と系統	生命の起源と生物の変遷																	
	進化のしくみ																	
	生物の系統																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物（文系）	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。 演習を通じて，学習内容を確認し，思考力や応用力を養う。
使用教科書	「改訂　生物基礎」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物基礎」（数研出版） 「共通テスト対策チェック＆演習　生物基礎」（数研出版） 「2024 共通テスト直前演習　生物基礎」（ラーンズ） 「共通テスト実戦問題　パックⅤ　生物基礎」（駿台文庫）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	入試対策演習

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の特徴	生物の多様性と共通性	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査	■	2学期期末考査	■			学年末考査	
	生物とエネルギー	■										■		■				
遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA		■									■		■				
	遺伝情報とタンパク質		■									■		■				
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達				■							■		■				
	免疫のはたらき						■					■		■				
生物の多様性と生態系	植生と遷移								■			■		■				
	生態系と生物の多様性									■		■		■				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	直近の課題である大学入試対策に重点を置くも、高校1・2年における学習で習得した基礎的な能力を更に伸長させながら、4技能における言語活動の総合的かつ統合的な関連付けを行い、コミュニケーション・受験対策両面の並立を目指す。
目標を達成するための留意点	将来に役立つ実用英語の礎の築きと受験の成功の両立のための施策
教科書	Revised Element English Communication Ⅲ（啓林館）
使用副教材	Make Your Ascent to Better English Reading （数研出版） 共通テスト リーディング（数研出版、美誠社、桐原）
評価基準	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度 2. 表現能力（Speaking Writing） 3. 理解能力（Listening, Reading） 4. 言語や文化についての知識・理解 上記の4つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、「言語の使用場面」の明確化と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動を行う。 ・コミュニケーション英語ⅠおよびⅡにおける学習で習得した基礎的な能力をさらに伸長させながら、4技能における言語活動を総合的・統語的に行う。 ・受験に対して総仕上げの時期であることを見据えてその対策も十分に行う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6年	コミュニケーション英語Ⅲ	Part4及びMake Your Ascent	Lesson 9		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			Lesson 10						■																													
			Lesson 1(以降MYA)							■																												
			Lesson 2								■																											
		Make Your Ascent	Lesson 3									■		■				■																				
			Lesson 4																■																			
			Lesson 5																	■																		
			Lesson 6																		■		■															
		Make Your Ascent	Lesson 7																					■														
			Lesson 8																						■													
			Lesson 9																							■												
			Lesson 10																									■										

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語表現Ⅱ	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	・英語による指導の下に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する ・事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う ・受験において文法・作文問題の対策も視野に入れる。
目標を達成するための留意点	将来に役立つ実用英語の礎の築きと受験の成功の高い次元での両立のための施策
教科書	啓林館　　Vision Quest　English Expression　Ⅱ
使用副教材	共通テスト リスニング（数研出版、エミル出版、桐原） 共通テスト リスニング 10 分（エミル出版、桐原） 入試必携英作文（数研出版）
評価基準	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度 2. 表現能力（Speaking Writing)） 3. 理解能力（Listening, Reading） 4. 言語や文化についての知識・理解 上記の 4 つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・身近な様々なトピックについて英語で表現をする機会を教員からの仕掛けによって積極的に作る ・リスニングの練習を継続的に行う。 ・文法問題、作文問題に対する受験対策の確保も行う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6年	英語表現Ⅱ	Vison Quest Ⅱ	パラグラフライティング					1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			英文を書くときのポイント																																		
		共通テストリスニング 英作文																																			

学年	科目	単元	項目	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
6年	英語表現Ⅱ	Vison Quest Ⅱ	パラグラフライティング		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			英文を書くときのポイント				■		■																													
		共通テストリスニング 英作文								■																												
											■																											
												■		■				■																				
																			■																			
																				■																		
																					■																	
																						■	■															
																								■														
																									■													
																										■												
																												■										

教科	科目	単位数	対象学年
英語	コミュニケーション英語Ⅱ	3	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	・多様な題材をもとに触れ、「聞く、読む、話す、書く」の４技能を有機的に関連付けつつ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。 ・テキストを正確に理解し、それが前提としていることや背景にあることを推論する。 ・推論を積み重ねて、テキストを深く理解する。 ・テキストの深い理解を基にその内容を批評する。
目標を達成するための留意点	・実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、「言語の使用場面」の明確化と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動を行う。 ・テキストの内容だけでなく、その背景知識も提示することで、より深いテキスト理解を促せるよう留意する。
使用教科書	Revised Element English CommunicationⅡ（啓林館）
使用副教材	総合英語演習インテグラル　スタンダード　（エスト出版）
評価基準	・コミュニケーションへの関心、意欲、態度 ・表現能力(Speaking、Writing) ・理解能力(Listening、Reading) ・言語や異文化についての知識、理解 上記の４つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・いろいろな題材を読む中で、国際理解を基本とし、国際感覚と国際協調の精神を育む。表面的な英語の日本語変換ではなく、多様な文化・民族・社会背景・思想などについて筆者(発信者)と自分の考えを比較し、自分の考えを述べる。 ・教科書で履修した語句などを使って自分の考えを比較し、自分の考えを述べる。 ・大学入試問題に対応できる読解力と文法力を養成する。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6年	コミュニケーション英語Ⅱ	ElementⅡ	Reading					1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		INTEGRAL	Lesson 1																																		
			Lesson 2																																		
			Lesson 3																																		
			Lesson 4																																		
			Lesson 5																																		
			Lesson 6																																		
			Lesson 7																																		
			Lesson 8																																		
			Lesson 9																																		
			Lesson 10																																		

教科	科目	授業時数	対象学年
家庭	家庭基礎	2	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	生活を充実・向上しようとする実践的な態度を持つことができる。 家庭生活の意義や社会とのかかわりを理解し、男女が協力して家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と態度を身につける。	
目標を達成するための留意点	各分野の基礎的・基本的な知識や技術を、実践的・体験的な学習を通して習得する。 実習の際には、実習費・裁縫道具・エプロン・三角巾・ふきん・マスクが必要。	
使用教科書	「高等学校 家庭基礎　グローバル＆サスティナビリティ」(教育図書)	
使用副教材	プリント教材　他	
評価基準	授業、実習での意欲関心 定期テスト、課題・作品	
学習内容	1-1 青年期の自立と家族 1-2 子どもの発達と保育 1-3 高齢期の生活 1-4 共生社会と福祉	2-1 食生活を自立 2-2 衣生活と自立 2-3 住生活と自立 2-4 消費生活と経済

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	体育	3	6年

1．学習の到達目標等

到達目標	各種の運動の合理的な実践をとおして、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動することのできる資質や能力を身につける。
目標を達成するための留意点	・各運動の基本的技能を身につける。 ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。 ・規律規範を守る。
使用教科書	現代保健体育（大修館）
使用副教材	最新スポーツルール（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。また、社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。 【思考力，判断力，表現力等】 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 【学びに向かう力，人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身 につけるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。 上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。
学習内容	下記の　2．指導計画参照。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
6	体育	集団行動			■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		体つくり運動			■	■	■																																
		新体力テスト			■	■	■																																
		陸上																																					
		ダンス																																					
		武道																																					
		球技	ゴール型、ネット型、ベースボール型							■	■	■	■						■	■	■	■			■	■	■	■											
		器械運動																																					